



東高だより 2023年度前期号

隣の芝生は青く見える



校長 小川 政博

『子は親を写す鏡』ということわざがあります。「親の考え方や言動がそのまま鑑のように子どもに映し出されるもの」と言われていますが・・・。

PTA会員の皆さんは、子供たちと接していて「考えていることがよく分からない」「価値観が自分たちの頃と全く違う」と感じたことはありませんか？最近、「ミレニアム世代」「Z世代」といった言葉を耳にすることがあります。何となく「自分たちとは価値観が異なるらしい」「これまでの世代と何かがちがう」と捉えている人もいます。

生まれた年代によって価値観や考え方に影響を受けるといふ、いわゆる「世代論」の考え方は古くからあります。「ゆとり世代」は〇〇〇「団塊」は〇〇〇・・・、まことしやかに交わされる世代論。少なくとも「世代間ギャップ」を感じた経験は多くの方々にあることと思います。1つの傾向として、世代によってどんな特徴があると言われているのか、ちなみに自分はその世代に入るのかなどを概観してみることが子供たちへの理解を深め、歩み寄り添うためのヒントになるかもしれません。そこで、新しい世代として注目されている「Z世代（96年以降生まれ）」に焦点を当ててみます。

(1) 世界は不安定なもの
Z世代が育ってきた時代の代表的な出来事は、アメリカ同時多発テロとリーマンシ

ョックに端を発した世界的な不景気。Z世代は物心ついた頃からニュースなどでテロの話題に触れる機会が多く、この世界が孤独で不安な場所だと無意識レベルで刷り込まれているそうです。モノやお金といった経済的な価値を絶対視することなく、より本質的で自分にとって大切だと思う「目に見えないもの」を大切にしている傾向があるとも言われています。

(2) ブランドよりも自分らしく

Z世代の特徴の1つに「多様性」があり、多くの人がどう評価するかを気にするのではなく、好みや感じ方は人それぞれであるのが自然と感じる人が多いと言われ、「成功してタワーマンションに住みたい」「一流大学を卒業して一流企業に勤めたい」といった欲求も、他の世代と比べると低い傾向にあるようです。また、収入よりも、安定して長く続けられる仕事を好む傾向があるとも言われています。

(3) SNSでのコミュニケーションや感動の共有を重視する

SNSを利用するにあたって、Z世代は不特定多数の人に自分のプライベートを見てもらいたいのではなく、知っている人、身近な人と感動を共有したいという心理が強くなる傾向にあるようです。情報を発信するのであれば、自分のことを理解してくれる相手、自分のことを理由もなく攻撃するリスクの低い相手であってほしいと考える。物心ついた頃から日常的にSNSに接し、炎上や誹謗中傷などのリスクを身近に育ったZ世代にとっては、SNSは不特定多数の人に向けて貪欲に情報を発信するためのツールではなく、現実世界で認められる範囲の人とのつながりを強めるためのツールとして考える傾向を持つそうです。

さて、社会的自立を目前に揺れ動く高校生、生、の傍らで、毅然と、支え、背中を押している保護者の皆さん。スウェーデンやネイティブアメリカンなどの格言に『喜びは分かち合うことで倍になり、悲しみは分かち合うことで半分になる。』とあります。

決して「隣のお宅だけが青々としている」わけではありません。今回ご紹介しました『Z世代論』も話題の1つです。白老東高校の保護者同士が共感し合い、悩みを半分に、喜びを2倍、3倍にしていきたいことが出来ればと願っております。

着任者紹介

- ①お名前 ②教科名 ③前任校
④教員経験 ⑤分掌・部活動名
⑥趣味 ⑦何か一言

① 塚原 康隆 教頭



- ②保健体育
③北海道幌加内高等学校
④29年
⑤スポーツ観戦
⑦皆さんの高校生活がより有意義なものとなるよう頑張ります。よろしくお願ひします。

① 白浜 みち佳



- ②国語
③北海道清水高等学校
④9年
⑤教務部・茶道部、バスケットボール部
⑥登山、温泉巡り
⑦生徒の皆さんや、地域に貢献できるよう、自分ができることを全力で頑張ります。よろしくお願ひいたします。

① 柚原 航太



- ②地歴公民
③北海道函館水産高等学校
④5年
⑤生徒指導部・バドミントン部
⑥野球観戦
⑦本校のために全力で頑張ります。よろしくお願ひいたします。

PTA会長挨拶



PTA会長
齊藤 隆興

今年度PTA会長を務めさせていただきます齊藤隆興と申します。

新年度を迎え約半年が経過しました。1年生は学校生活にも慣れ、2年生は進路について本格的に考えていかなければならない時期となり、3年生は進学受験の準備・就職活動に日々忙しく学校生活を過ごされていると思います。

昨年度までは、コロナ禍のため様々な行事に制限がかかり、校長先生をはじめ教職員の皆様は対応に苦慮する非常に難しい教育環境であったと思います。また、保護者の皆様にも色々ご負担を掛ける事も多々あったと思いますが、本年度からは規制もほなくなり通常の学校運営が行われることをとても有難く感じています。

先日、PTA連合会の全道大会が小樽市にて4年ぶりに開催され、本校からは塚原教頭先生と私で参加して参りました。講演ではドラマにもなった「家裁の人」の原作者、魚戸おさむ氏による「漫画と絵本で描いた食生活」を、生きること」と題し、食を通じて様々な角度からコミュニケーションの大切さを語って頂きました。

テーマ別に分科会も行われ、私は「大人と子どもの望ましいコミュニケーションについて」というテーマの分科会に参加しました。昔は親だけでは無く地域の大人も我が子を育ててくれるという環境があったが、現代では色々な面で親子のコミュニケーションが大切であるとお話がありました。本校家庭科授業の一環で高齢者大学の方にお手伝いをお願いをしてミシンの使い方を教えて頂いた事例をこの会で話したところ、とても素晴らしい取り組みです。ぜひ、他の地域でそういう学校は非常に少ないという学校は非常に少ないというお話でした。学校教育の中に地域ネットワークの構築も含まれており、白老東高校は時代先駆けた教育を率先して行っている、今後の進展に非常に期待しております。最後に、保護者の皆様にお話ししたいのは、PTA活動で一番重要なのは、親が先生方の一番の味方・応援団になること、先生方が安心して全力で子どもたちと接する事が出来る環境をつくること、これが非常に大事であると考えます。

本年度もPTAでは、生徒が実りある学校生活を送るためのサポートを出来る限りして参りますのでご理解ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

入学式



令和5年度 PTA役員・委員会名簿

【敬称略】

会長 齊藤 隆興

副会長 堀部 貴志

監査 小澤 香

生活委員会 櫻田 克孝

秋山 恵

川村 真澄

佐藤 香名子

林崎 奈緒

菊地 美恵子

菅田 真由美

土井 祐子

坂下 彩花

本間 恵子

大島 光代

佐藤 カオリ

福田 勇人

大浦 亜紀子

土田 由紀枝

船越 真梨

坂本 佑加子

村岡 加代子

三上 由美子

よろしくお願いいたします！

1学年 陣屋探究



仙台藩白老元陣屋資料館



陣屋探究の感想

1年A組 西村 匠弥

私は陣屋を初めて知った時からとても興味を持ち楽しんでいたこともあって、調べている時間や実際に陣屋に行つて学んだ時間がとても楽しく、有意義な時間となりました。

北海道にこんな場所があったことを知り、実際に行ったら楽しいだろうとも思っていた私は、調べていく中で陣屋には北海道では自生しない赤松があることを知りました。そのこともあり、早く陣屋に行つて色々見てみたいと思うようになりました。

いざ着いてからは、資料館の中で三年生の先輩方のガイドに耳を傾けたり、郭を見学したり、神社を訪れたりもしました。期待していたとおり、陣屋は楽しいと思いつつ、歴史について学んでいきました。館長さんや先輩方の解説がわかりやすく、すぐに理解することができました。色々と陣屋の事を知った後は、グループ毎に分かれて個別のテーマについて調べました。私の班は草刈運太郎の事について調べました。館長さんが車で草刈運太郎に係る場所に連れて行つてくださったので、楽しく学んできました。

資料館に戻り、発表のためのポスター作りをしました。思っていた以上にスムーズにできあがり、これも館長さんのおかげであると感謝しています。発表の場でも、調べたことをしっかりと伝えることができ、無事に終わることができたので安心しました。

今回のことを振り返り、楽しく学ぶことができて良かったと思いますし、良い勉強になったと思います。

白老東高等学校祭



2 1
位 位
2 3
1 1
B A

パレード部門

2 1
位 位
3 3
1 1
A B

山車部門

2 1
位 位
1 3
1 1
B A

クラスパフォーマンス部門

準優勝 優勝
3 3
1 1
B A

総合

学校祭結果発表

一丸となれた学校祭

3年A組 今野 楓真

今年の学校祭は様々なことがあり、最初から最後まで大忙しでした。三年A組のクラステーマは「ジブリ」でしたが、まず大変だったのは、パフォーマンス部門の準備です。まず、どのジブリ作品を使って、どのように動画を作るかにかなり頭を悩ませました。

衣装や小道具の問題もあり、当初は動画が完成しないのではないかと不安でした。しかし、クラス総動員で小道具を作ったり、衣装が買えるよいお店を発見したりと、クラスの力を集結させて、なんとか期日までに動画を完成させることができました。しかし、パフォーマンス動画が完成し、安心したのも束の間、今度は山車が厳しい状況に追い込まれていました。私たちの山車はジブリの作品に登場する「油屋」という建物で、細かい小屋を作り、それを壁に付けるといって精密な作業がありました。とても山車のメンバーだけでは作業が間に合わなかったの

で、これもまたクラス総動員で、皆で一生懸命に作業し、期日ギリギリに何とか完成することができました。最後に模擬店部門の準備がありましたが、模擬店部門のメンバーはギリギリまで他の部門を手伝ってくれていたため、ブーースの設営準備が他のクラスに比べて進んでいませんでした。そのため、これもクラス総動員で一氣に設営を行い、前日ではありましたが、あつという間に設営を終えることができました。

今回、私はクラス委員長であったために、本来ならばクラスの人たちに指示を出し、先導しなければならぬ立場でした。しかし、皆しつかりと自分で考え、意見を交換し合うこともできており、委員長として何かをしたということはありません。少しは少なかつたように思います。クラスの皆がしつかりと同じ方向を見て、完成に向けて努力できたことは私に思っています。その結果として総合優勝を取ることができました。最後の学校祭でクラス全員が一丸となれて、私はとても嬉しかったです。

元に戻りつつある学校祭

生徒会長 佐藤 将斗

今年の学校祭は、新型コロナウイルスが5類に分類されたことにより、マスクを外し、一般公開としての開催となりました。制限が緩和されたことにより、昨年よりも規模を拡大させることができ、とても賑やかな二日間を送ることができました。

一日目は、放送局によるオープニング映像で始まり、学校祭準備期間の生徒の様子が流れ、全体が学校祭ムードになったところでクラスパフォーマンスの鑑賞をおこないました。今年も映像となりましたが、一つの物語を作ったクラスやダンスなど各クラスの個性が出た映像を見ることができました。その後、グラウンドに移り山車パレードを行いました。今年は、公務補さんの協力のおかげで山車を大きくすることができ、クラステーマに沿ったパレードを見るこ

とことができました。小道具の使用や山車の説明、観客へのアピール等が見られとても盛り上がったと思います。

二日目には、各クラスの模擬店、茶道部、吹奏楽局、生徒会の出店で一般来場者を盛り上げました。今年はキッチンカーを一台増やすことができましたが、予想外に長蛇の列となり改善点です。

私がいる三年間で、一番に盛り上がった学校祭だったのではないかと思います。

入学当初は、コロナの制限で思うようなことができない学校祭でしたが、年々緩和されることが増え、さらにいろいろなことができるようになっていくのではないかと思いますが、私たちはもういいですね。在校生は新入生と協力して今年以上に賑やかな声が聞こえる、いい学校祭になることを願っています。特に新生徒会の皆さん、どんな困難にも負けず頑張ってください。

高体連・高野連・高文連 結果報告

○バドミントン部

- ・高体連室蘭支部大会 (5/31~6/1)
個人戦 男子シングルス 初戦敗退 秋山 和野
個人戦 女子シングルス 初戦敗退 大島 佐藤
- ・北海道バドミントン選手権大会 (6/24)
個人戦 女子シングルス 初戦敗退 佐藤

○野球部

- ・令和5年度第105回全国高等学校野球選手権大会
北海道大会室蘭支部予選
アナウンス手伝い

○硬式テニス部

- ・4月22日 室蘭支部高等学校春季テニス大会出場
ダブルス 山本・石本組 1回戦敗退
シングルス 山本 大智 1回戦勝利 2回戦敗退
石本 哲大 2回戦敗退
- ・5月16・17日 高体連室蘭支部テニス選手権大会出場
ダブルス 山本・石本組 1回戦敗退
シングルス 石本 哲大 1回戦敗退
山本 大智 2回戦敗退

○バスケットボール部

- 男子バスケットボール部
・苫小牧地区高等学校バスケットボール春季大会
1回戦敗退 白老東 41 — 82 苫小牧工業高等専門学校
・全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技大会室蘭支部予選会
1回戦敗退 白老東 55 — 60 静内
・第76回北海道高等学校バスケットボール選手権大会苫小牧地区予選会
1回戦敗退 白老東 20 — 112 浦河
- 女子バスケットボール部
・全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技大会室蘭支部予選会
1回戦敗退 白老東 0 — 20 海星 (不戦敗)

○放送局

- ・令和5年度 NHK杯放送コンテスト 苫小牧地区大会
(会場：苫小牧文化会館)
- ・令和5年5月19日 (金) 朗読部門 5名出場

○吹奏楽部

- ・北海道高等学校文化連盟 苫小牧支部 音楽専門部第57回音楽発表大会
令和5年6月26日 (月) 4名出場



忙(せわ)しない 三年間

放送局 菅田 響

入学してすぐ、この局に入ることを決めました。当時は何気なく直感を頼りに入局をしましたが、惹かれるべくして入局したと今では考えます。入局当時はコロナ禍全盛期でしたから本来の部局活動がろくにできず、秋の高文連の朗読大会までは先輩方からの発声指導が主な練習でした。そして訪れた大会。録音による初めての大会参加。特に実感もなく初の大会は終わりました。しかし、大変なのはここからでした。文化祭や体育祭での音響係と生徒会役員としての運営の二役を任せられました。このころには、私は放送局員であると同時に生徒会役員の一人であったので、ひどく忙しかった思い出しかありません。

二年生へと上がると先輩が出来ましたが、この時期の放送局には三年生がおらず、私たち二年生が最高学年でした。先輩たちは皆個性的ではありましたが、飲み込みが早く先輩として苦労した記憶はありません。このころになるとコロナもだいぶ落ち着き活動も活発になってきました。去年は行えなかった会場での朗読大会。大勢の前で読み上げる経験はとても刺激的なものでした。結果としては、思い出したいくらい苦いものではなかったが……。大会が終われば学校行事です。学校祭のOPPに風景を撮影したり、後輩と動画を作成したりと他とは違う楽しみ方となりました。

編集後記

今年度は、コロナウィルス予防のためのマスクの着用も任意となりました。この夏の暑さも影響しているのか、マスクを着用しない生徒も目立つようになってきました。学校祭も無事に実施することができ、徐々にではありますがコロナ以前の学校生活に近づいているように感じます。学校行事に参加することは、様々な経験をすることができ、個々の人間形成に關して大切だと思います。後期についても同様に行事を実施できればよいと考えます。

した。体育祭では競技の実況を行い、これまた皆とは別方向に忙しかったです。三年生になっても、先輩が増えたこと以外特に変わったこともなく特異な部局活動でした。私本人としては、いろいろな技術を先輩たちに残していくことに力を入れました。一つ心残りがあるとは、私用で最後の大会に出ることができなかったことくらいで、それ以外はとても楽しい部局活動でした。三年間、放送局員と生徒会役員を兼任して過ごして分かったことは、行動力の大切さです。どの行事でも運営として参加であるうえ、放送局員と生徒会役員、2つの仕事と同時に来ますから少しでも効率的に行動できるように考え、行動し、改善の繰り返しでした。そう考えて振り返るとこれからの生活に活かせる高校生活であったと思います。